5月号　平成２６年４月３０日発行

荏田小だより

横浜市都筑区荏田南町６９４番地［TEL 911－0149］
アドレス［http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/eda/］

外にある言葉

校長　澤田　有子

「言葉って、どこから出てくると思いますか。」と聞かれたら、なんと答えるでしょうか。頭の中から？　それとも、心の中から？　これは、大人でも首をひねってしまう質問ではないでしょうか。

赤ちゃんは、“言葉の洪水”の中から、簡単で覚えやすく自分に直接関わるものから言葉を獲得していきます。「ママ」「マンマ」「ねんね」などが最初でしょうか。「いや」という言葉も早期に覚える言葉の一つでしょう。学校では、「自分の言葉で言ってごらんなさい」とか、「自分の言葉を探してごらんなさい」などと子どもたちを促すことがありますが、中には「考えているけど言葉にならない」と固まってしまっている子どももいるように思います。特に、心のひだの奥深くにある感情を表現するためには、それに一番近い言葉を見つけ出すことが必要になってきます。見つけられなかったら表現する術がありません。

それでは、どのような手立てをとれば、それらの言葉を手に入れることができるようになるのでしょうか。

詩人の谷川俊太郎さんは、静岡県藤枝明誠高校図書研究会の生徒たちにつぎのように話しています。「人は生まれてきたときは言葉をもっていない。周りの大人が使う言葉を学び、まねて、自分の言葉にしていく。実は言葉って、自分の外にあるものなのだ。」と。

つまり、内にあるはずの言葉をひたすら探せと強いるのではなく、より自分の気持ちや考えに近い『外にある言葉』を見つけて身につけ、自分の言葉にしていくことが、自己表現力をつけるためには重要になってくるのではないでしょうか。自己表現力をより一層身につけることができると、人とのコミュニケーションも深く行えるようになるに違いありません。

今年度本校では、“外にある”豊かな言葉を獲得するために、読書活動と図書館活用のより一層の充実を図りたいと考えています。

- ○　毎週水曜日に行っている≪荏田っ子読書タイム≫を5分延長し、15分とします。
- ○　1～4年生は、『荏田おはなしの会』による読み聞かせを行います。
- ○　5、6年生は、1回／月の読み聞かせと、読書活動を行います。本選びには、図書館司書も関わります。
- ○　調べ学習で使用する蔵書等の充実を図ります。

学校図書館司書による
「図書館オリエンテーション」

お家でも、『外にある言葉』を意識してみてはいかがでしょう。